

特集

自分らしく生きる

性の多様性を認め合おう

「女の子はおままごとをし

て遊ぶもの」「男の子なら電
車が好きなはず」「女性はお
しとやかに」「男性は強くな
くては」などと、性別で決め
つけるような言葉を聞いたこ
とはありませんか。

性別は、「男性」と「女性」
の2種類だけではなく、身体
の性別と異なることもあります。

人はみな、他の人とは違う
個性があり、やりたい事や得
意な事、好きな事などは異な

ります。

性別でその人を決めつける
ことはできないといえます。

誰もが自分らしく生きたい

近年、「LGBTQ+」や
「性的マイノリティ(少数者)」
という言葉を目にすることが
多くなりました。

日本では、LGBTQ+に
該当する方は人口の約9%と
言われています。11人に1人
が該当することになります。

性別で決めつけられるよう
な言葉で人知れず傷ついてい
たり、社会を生きづらいつと感
じている方が身近にいるかも
しれません。

誰もが自分らしく生きるた
め、誰もが多様な性のあり方
を知り、一人一人が理解を深
める必要があります。

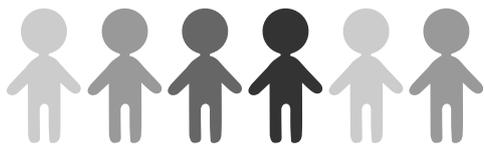
今月の特集では、性の多様
性について考えます。

【詳細】市民生活課 市民協働

担当 ☎381-1124

LGBTQ+ に該当する方は どのくらいいるの？

LGBTQ+ に該当する方は、日本では人口
の8.9%で、この割合は日本における左利
きの人とほぼ同じだと言われています。



約 11 人に 1 人

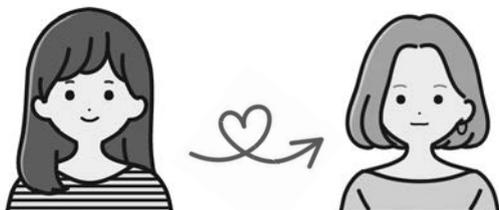


※電通ダイバーシティ・ラボ (2021)『LGBTQ+ 調査 2020』より

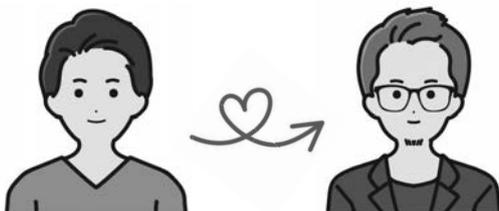
▼ **LGBTQ+** (読み方：エル・ジー・ビー・ディー・キュー・プラス)
多様な性のあり方に対する表現の一つです。

性的指向

Lesbian (レズビアン)
こころの性が女性で、恋愛対象も女性



Gay (ゲイ)
こころの性が男性で、恋愛対象も男性

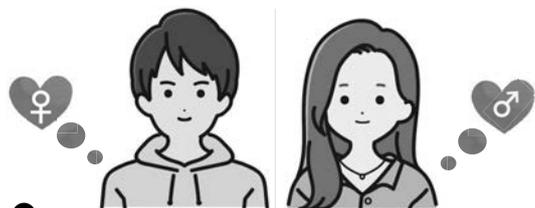


Bisexual (バイセクシャル)
同性も異性も恋愛対象の人



性自認

Transgender (トランスジェンダー)
からだの性とこころの性が一致せず、こころの性で生きる (ことを望む) 人



Questioning (クエスチョニング)
こころの性や好きになる性について、迷っている人、決まっていない人、あえて決めていない人

+ (プラス)
その他、無数に存在する多様な性を表すのが「+ (プラス)」です。

▼ **性のあり方**

性のあり方には、4つの要素があります。その組み合わせは多様で、人の数だけあるとも言われています。

からだの性

出生時に割り当てられた生物学的な性。戸籍に記載されている性別。

こころの性

自分の性別をどう思っているのかを表す性。男/女のほか、どちらでもある/どちらでもないと思う人もいます。

表現する性

言葉遣いやファッションなど自分自身を表現する性。

好きになる性

どの性別を恋愛の対象とするかを表す性。

▼ **SOGI** (読み方：ソジ または ソギ)

どの性別を恋愛の対象とするかを表す「性的指向」と、自分の性別をどう思っているのかを表す「性自認」の頭文字をとった略称です。

どんな性別を好きになるのか、自分自身をどういう性だと認識しているのかという状態を指すため、性別と心の性が同じかどうかに関わらず、全ての人が含まれる考え方です。



Ally (アライ) になろう



Ally (アライ) は、LGBTQ+ の当事者に共感し、寄り添いたいと思う人のことをいいます。困り事や問題を抱えている人がいる時に一緒に考え、行動する人です。

一人一人が、多様な性について正しく知り、理解を深め、支援する気持ちを持って相手と接することができれば、皆さんも Ally (アライ) の一人です。

レインボーフラッグを知っていますか？



レインボーフラッグは、LGBTQ+ の象徴で、Ally (アライ) の方が支援の表明として掲げています。赤 (生命)、橙 (癒し)、黄 (太陽)、緑 (自然)、青 (平穏と調和)、紫 (精神) の意味を持つ6色で構成されています。

ソジ 江別 SOGI の会 当事者・Ally (アライ) の方への インタビュー

江別 SOGI の会は、令和元年に設立された、SOGI (性的志向・性自認) に関する啓発や支援をしている団体です。生きづらさを解消し、人権を尊重し合える、誰もが安心して暮らすことの出来る社会の形成を目指しています。

江別 SOGI の会 会長
たかお 館内 孝夫 さん

「江別 SOGI の会」の会長で、LGBTQ+の当事者でもある館内孝夫さんに話を伺いました。

自分の性について、意識し始めたのはいつですか

物心ついたときからなんとなく分かっていました。小学生の時は、言動が女っぽいか言われていたみたいで、いじめられていました。周りの男性は女性に関心を抱いていたけど、私は男性の方に気持ちが向いてたので、周りとは違ってたと思います。私が学生だった時は、LGBTQ+などに関する本も少なく、恋愛も片思いで終わってしまうことが多かったです。

社会人になると、同性愛者向けのコミュニティに参加するようになりました。同じような悩みをかかえている人たちと話をすることができて、自分だけじゃなかったんだと思えました。

家族にカミングアウトしたきっかけは何ですか

6年前、滝川市で市議会議員をしていた時、パートナーシップ宣誓制度を滝川市でも導入したくて、周りを説得す

るには、自分がカミングアウトすることが必要だと思いました。レインボープライド(LGBTQ+について知ってもらうためのパレードイベント)の写真撮影でカミングアウトし、家族が知るところになりました。両親は、薄々わかっていたと理解し、応援してくれました。

生活するうえで困っていることは何ですか

困っているわけではないけれど、会社で「奥さんってどんな人？」と聞かれることがあります。そこであえて自分がゲイで、パートナーが男性であることは説明せず、奥さんと称して話しています。パートナーは女性であるという世間の認識があるので、いちいち気にしませんし、周りに知られてもいいと思っています。周りの人が知ってどう思うかはその人の問題なので、受け取った人がどう思うかを気にしたりしません。

ただ、誰もが私のように気にしないわけではなく、嫌な思いをする人ももちろんいると思います。それも、感じ方は人それぞれなので、マイノリティ(少数者)だからこう

思う、マジョリティ(多数者)だからこう思うことはありません。その人それぞれであって、その人を一人の人として接してあげることが、大切なのだと思います。

性について悩んでいる方に伝えたいことはありますか

「あなたは決してひとりじゃない」と伝えたいです。同じような悩みを抱えている人はたくさんいます。私も社会に出て、当事者のコミュニティがたくさんあり、同じ思いを持った人がたくさんいるんだと驚きました。ひとりでは悩まないでください。

皆さんに伝えたいことはありますか

一つのニュースを聞いても、みんなそれぞれ違う意見をもったり、違う感じ方をします。人それぞれ違うのは、性についても同じです。

LGBTQ+だとか、多様性だとか言われても、すぐには理解できない方も多いと思います。まずは、一人の人間として、その人の生きざまを受け入れてみてください。急がずゆっくり、自然にみんなに知ってもらえたら嬉しいです。

「江別 SOGI の会」幹事で、アリー（アライ）として活動し、市内で行政書士として働く、五十嵐拓也さんと五十嵐友紀子さんに話を伺いました。

江別 SOGI の会を設立したきっかけは何ですか

私たちは、一般社団法人 ENISHI という性的マイノリティの方に対する法的な支援や社会に対する啓発活動を行う団体で活動をしていました。活動をしている中で、館内さんと出会い、館内さんと一緒に「江別 SOGI の会」を設立しました。

江別には LGBTQ+ を支援する団体がなかったため、身近な地域に相談できる場所があるといいなと思いました。気軽に相談できる窓口になる団体を目指しています。

どんな活動をしていますか

主な活動は、2か月に1度開催している「情報交換会」です。簡単に言うと、おしゃべり会です。

当事者の方が悩みを吐き出せる場所であるだけでなく、世代や性別、職業なども問わず、集まってお話をしています。

す。話す内容は、みんなでお話し合い、江別のいいところを話してみたり、たわいない話をしています。

ほかの市町村では、LGBTQ+ に該当する方のみが参加できる集まりもありますが、江別 SOGI の会の情報交換会は、SOGI を考える場所なので、当事者も当事者でない方も参加できます。LGBTQ+ について詳しく知りたい、勉強したいと言って参加してくれる方もいました。

参加した人が何か相談しなければいけないわけではないので、気軽に足を運んでほしいです。

情報交換会のほかにも、市からの依頼を受け、啓発ポスターの制作なども行いました。



▲中学校用ポスター



▲小学校用ポスター

どんな支援をしていますか

相談窓口として、話を聞くこともできますし、専門的なところにつなぐこともできます。例えば、当事者の家族の悩みであれば、当事者の家族を支援する団体 (SOGI-Mami's) につないでいます。

また、私たちは行政書士なので、法的な支援も可能です。性について悩んでいる方に伝えたいことはあります。

相談する場所や人がいないのはつらいことです。住んでいる地域に相談できる場所があると安心できると思います。私たち江別 SOGI の会でも、当事者同士の集まりに行ってもいいと思います。思いつめないで、声をかけてくれたらうれしいです。

皆さんに伝えたいことはありますか

みんなそれぞれ違い、同じではありません。「男性だからこうあるべき」「男女カテゴリーが普通である」などと決めつけることなく、その人の個性として、受け入れてほしいです。



江別 SOGI の会 情報交換会

次回は 11/26 (日)

【開催日】5月・7月・9月・11月・1月・3月の第4日曜日

【時間】14時～16時

【会場】市民交流施設「ぷらっと」

※参加無料

※申し込み不要

※途中入退出可

江別 SOGI の会 幹事
五十嵐 友紀子 さん

江別 SOGI の会 幹事
五十嵐 拓也 さん

生きづらいことの解消を目指して

パートナーシップ宣誓制度を導入しています

パートナーシップ宣誓制度とは

性的マイノリティ（少数者）の当事者を含むカップルが、お互いを人生のパートナーとし、日常生活において相互に協力し合う関係であることを宣誓し、市が両者に対して証明書（パートナーシップ宣誓書受領証）を交付する制度です。

結婚に似ていますが、国が法律で認めている婚姻制度とは全く別の制度で、パートナーシップ宣誓を行っても法的な権利や義務が発生することとはなく、相続や税控除などの法律上の効果もありません。

宣誓により利用できること

市の手続きでは、これまで配偶者として入居できなかった市営住宅にパートナーと一緒に入居できたり、

同居であれば税務証明書を委任状なしで請求できます。また、市立病院では、家族と同様に、患者のパートナーが手術や輸血の同意をすることができると、これまで法律上の配偶者にしか認められていなかった手続きの一部が利用できます。

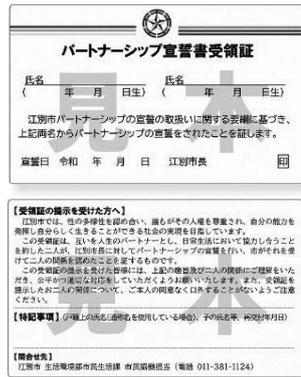
また、民間企業においても、携帯電話料金の家族割引の適用や生命保険の受取人の指定、従業員のパートナーを配偶者とみなして福利厚生を適用するなど、これまで法律上の夫婦や家族しか受けられなかったサービスを適用する取り組みが進んでいます。

お店、施設、病院で働く方へ

家族限定のサービスを提供しているお店などで、配偶者や家族であることの証明としてパートナーシップ宣誓書受領証が提示される場合があります。

受領証の提示は、パートナー関係の証明であると同時に、カミングアウトでもあります。対応される方は、この制度の趣旨と2人の関係性をご理解いただき、アウティングに注意しながら、適切な対応を心がけましょう。

▼パートナーシップ宣誓書受領証



パートナーシップ宣誓をした方に話を伺いました



2人が他人ではない証に

私たちは男性同士のカップルで、10年以上、市外の賃貸マンションに2人で暮らし、退職を機に江別に家を購入しました。

もし、家の所有者が先に亡くなってしまった場合、残されたパートナーに相続することができません。夫婦のように家族のように生活を共にしていても、婚姻関係にあれば得られる権利がない現実になりまして。

パートナーシップを宣誓しても、法的にはまだ何も保障されるわけではありません。しかし、2人が他人ではないという何らかの証になれば、少しは安心できるのではないかと考え、パートナーシップを宣誓しました。

社会に認められた嬉しさ

何か大きな心情の変化があったわけではありませんが、初めて2人が社会において、パートナーシップ関係にあるという事実を認められた嬉しさがありました。

当たり前の社会に

性的マイノリティ（少数者）への偏見や差別は、人の心に潜んでいて、まだまだ気軽にゲイであることを明かせる社会ではないと感じています。心を許せるごく一部の相手にしかゲイであることを伝えられず、当たり前家族の話もできない現実にストレスを感じています。性的マイノリティ（少数者）の人たちが当たり前社会に存在していること、社会的に認められていない権利に苦しんでいることを多くの方に知ってほしいです。



性的マイノリティ（少数者）のための 支援団体・相談窓口

- **一般社団法人 ENISHI**
行政書士を中心とした団体。性的マイノリティ（少数者）向けの法的手続きなどの支援サービスや社会啓発活動を行っている。
☎ 206-1025（行政書士わいずみともみ事務所）
- **江別 SOGI の会**
市内で定期的に「SOGI 情報交換会」を開催するほか、講習会、勉強会、セミナーなどの出前講座を行っている。
☎ 311-1620（行政書士オフィスいがらし内）
- **SOGI-Mamii's**
性的マイノリティ（少数者）の当事者とその家族や支援者の情報交換・交流の場の提供を行っている。
✉ sogi.mamiis@gmail.com
- **こころの健康相談統一ダイヤル**
☎ 0570-064-556
（北海道立精神保健福祉センター）
- **みんなの人権 110 番**
☎ 0570-003-110
（札幌法務局）
- **北海道労働局雇用環境・均等部指導課 職場におけるハラスメント関係**
☎ 709-2715
（北海道労働局雇用環境・均等部指導課）
- **法テラスサポートダイヤル**
☎ 0570-078-374（おなやみなし）
- **よりそいホットライン**
☎ 0120-279-338 ※ガイダンスが流れたら 4
（一般社団法人 社会的包摂サポートセンター）
- **子ども相談支援センター**
☎ 0120-3882-56
（北海道教育委員会）

カミングアウトとアウティング

■ カミングアウト

自分の性的志向や性自認について、伝えたい相手に自らの意思で伝えること。自分らしく生きていくための手段の1つであり、自分の性を受け入れ、肯定する行為でもあります。

■ アウティング

本人以外の方が、本人の意思に反して他者に伝えたり、それと分かるような言動をとること。本人の同意なく、第三者に伝えることは善意であっても、アウティングにあたります。



アウティングは、人権侵害です

カミングアウトするかどうかは、本人が自分の意思で行うもので、カミングアウトを強要したり、逆に止めたりすることは不適切です。

アウティングは、精神疾患の発症や自殺に追い込むなどの事件や裁判が発生するほど、人権を侵害する問題とされています。

カミングアウトを受けたら？

あなたの周りにいる人からカミングアウトを受けたら、どのようにしたら良いでしょうか。カミングアウトをした人は、深く悩んだうえで、あなたを信頼し、話してくれたはずです。その方の気持ちに寄り添いましょう。

カミングアウトを受けたときの4つのポイント

- 「話してくれてありがとう」と、カミングアウトしてくれた「信頼」への感謝を表明する
- 「何かサポートできることはありますか？」と伝える
- これまで打ち明けてくれた範囲を確認するとともに、他者に伝えていいこと、伝えないでほしいことを確認する
- 本人の確認や了承なしに第三者に口外しないことを口に出して約束する

自分らしく

暮らしていけるまことに

この世の中には多くの人がいて、それぞれに個性があり、感じ方や考え方も違います。

その人の生き方を誰かが否定したり、悪く言うことで傷つく人がいます。

こころの性や好きになる性は、誰もが自分の意思では変えることができないものです。

性のあり方は、男と女に分けられないため、「グラデーション」だと言われています。

一人一人が多様な性を受け入れて、誰もが自分らしく暮らしていけるまことにしていきたいまじょう。

自分らしく生きるく性の多様性を認め合おう【終】

特集への感想をお待ちしています

▼ 郵送・ファクスで送る

〒067-8674 高砂町6 江別市広報広聴課宛

☎ 381-1149

▼ 市HPアンケートフォーム

市HP内「広報えべつ」を検索するか右の二次元コードを読み込んでください

